

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体				
乳幼児のむし歯ゼロ作戦			中保健センター				
事業目的	事業内容	活動指標	R1	R2	R3		
中区地域計画における「健康増進習慣の確立」「歯と口の健康教育の推進」をめざし、次のことに取り組む。 ○中区はむし歯を持つ乳幼児が堺市で一番多い区である（3歳児健康診査のデータより）。2歳頃は乳臼歯（奥歯）が生え始める大事な時期であり、このタイミングに歯科保健指導を行うことで、乳幼児のむし歯を減少させる。	○1歳6か月児健康診査時に中区に住民票のある2歳児に、1歳6か月児健康診査時のむし歯菌活動性検査結果と2歳の歯科相談の案内を郵送し、積極的に受診勧奨を行う。 ○2歳時に保健センターで歯科健診と歯科保健指導を行い、その後は堺市フッ素塗布手帳を活用し地域のかかりつけ歯科につなぐ。	3歳児健康診査（3歳6か月児）のう蝕罹患率の減少	19.8%	18.2%	14%		
		3歳児健康診査時（3歳6か月児）にかかりつけ歯科をもつ児の増加	56.2%	61%	58%		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	2歳ごろは、乳臼歯が生え始める時期でもあり、歯みがきを嫌がる時期でもある。この時期にタイムリーに歯科保健指導を行うことで、児のむし歯予防と保護者の歯みがきに関する困りごとを共有し保護者支援にもつなげることができた。	○	保健センターで歯科検診・歯科保健指導を実施した後は、地域の歯科医院につなぎ、継続したむし歯予防を地域で取り組むことができた。	○	中区は乳幼児のむし歯が多い区であることを区民が知ること、地域でむし歯予防に取り組むきっかけとなる。	○	歯科保健指導を受けることで、家庭での毎日の歯みがき習慣の動機付けをすることができた。他の事業と併せて行うことで、効率的に事業を行うことができた。
⑤自立発展性		総合評価					
○	むし歯予防のみならず、歯みがき習慣やおやつを食べ方など望ましい生活習慣の獲得にもつなげることができた。また、かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科保健指導を受けることで将来、健全な歯と口を保つことができる。	○	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で健診が遅れたので令和2年12月から効果判定を開始した。令和2年度は新型コロナウイルスの影響から電話相談に変更していたが、令和3年度は、対象者が来所し歯科検診・歯科保健指導を実施する従来の方法に戻した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、受診勧奨のTELを実施しなかった結果、受診率は50.1%に留まった。う蝕罹患率は年々減少していることから、2歳時点で歯科検診・歯科保健指導を実施することは効果的だと考える。				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
拡充 継続 見直し	R3年度は来所での歯科検診・歯科保健指導を実施したが、コロナで密を避ける点から積極的な受診勧奨は行わなかったため、受診率は50.1%だった。コロナ禍での受診勧奨は難しい状況であり、受診率の向上が課題である。おやつ指導もむし歯予防には重要と考え、R4年度は問診項目の「1日のおやつ回数は☑3回以上」、「3度の食事は規則正しく食べていますか？☑いいえ」のいずれかにチェックがついた児に対しては積極的に栄養士の個別相談を促す。R4年度も継続して事業実施することにより、う蝕罹患率が減少し続けるのか確認し、ゼロ作戦が効果的な事業であるかどうかを引き続き検証する。また電話勧奨を実施した児と、来所での歯科検診・歯科保健指導を実施した児で口腔内環境に変化があるのかも評価していく。						